



国際

沿岸レポート

第6回日韓沿岸技術研究 ワークショップの報告

一般財団法人沿岸技術研究センター
主任研究員 岡田理

1. はじめに

韓国海洋科学技術院 (KIOST)、国立研究開発法人港湾空港技術研究所 (PARI)、一般財団法人みなと総合研究財団 (WAVE) および一般財団法人沿岸技術研究センター (CDIT) は、年1回の合同ワークショップを通じて、沿岸防災、沿岸域管理、沿岸環境及び技術開発の4分野において、技術交流を行っています。第6回目となる今年は福岡での初めての開催となりました。韓国側からは総勢15名の方に参加していただきました。釜山からは飛行時間が35分と言うことで、東京からの飛行時間よりもずいぶん短い時間でした。12月10日から12日までの3日間、ワークショップの他、関門海峡及び響灘洋上風力発電設備の視察を行いました。

2. ワークショップ

ワークショップには、KIOST、PARI、WAVE、CDITの他、橋本九州大学教授、中川九州大学教授、九州地方整備局等、50名程の参加があり、1) Coastal Disaster and Response、2) Coastal Management、3) Coastal Environment、4) Technical Developmentの4セッションで、3編ずつ計12編の報告がありました。Coastal Disaster and Response のセッションでは、グリーンインフラを用いた耐津波設計に関する研究において、マングローブの根の模型(3Dプリンタ製作)を用いた水槽実験や、実物のマングローブに津波を作用させた水槽実験を行っており、非常に興味深い発表内容でした。また、Coastal Environment のセッションでは、浚渫土の長距離輸送に関する研究において、パイプラインに圧縮空気、電磁場、らせん状のノズルを用いて、浚渫土を長距離輸送する計画の紹介がありました。一日を通じて、参加者は大変関心を持って聴講していた様子で、予定の質疑応答時間を超過するほど活発な討議が行われました。

テーマごとの個別の報告の他にも、WAVEの細川顧問

による基調講演の「Beneficial use of dredged material, rehabilitation of ecosystem on constructed tidal flat」では、浚渫土を活用した干潟生態系の再生に関する研究内容をご紹介いただきました。また、KIOSTの李責任研究員による特別講演「Tidal Energy Development and Environmental Effects」では、韓国の潮流発電の現状と将来をご紹介いただき、韓国における再生可能エネルギーへの期待の大きさを感じました。閉会後には、講演者および関係者一同による記念撮影が行われ、和やかな雰囲気で行われることが出来ました。(写真1)



写真1 講演者および関係者一同

3. 関門海峡及び響灘洋上風力発電施設の視察

期間中、関門海峡(写真2)及び電源開発(株)若松総合事業所の視察を行いました。関門海峡では、下関市側から国際航路としての要衝を大型船が行き交う様子を一望しました。電源開発(株)は、2年前まで響灘洋上風力発電設備(写真3)の実証研究を担当しており、現在も引き続き実証研究で使用した洋上風車の運転、維持管理を行っています。事業所では銅スラグを混入した消波ブロックの説明と、響灘洋上風力発電設備に関する説明がありました。参加者は電源開発担当者へ多数の質疑を行い、皆それぞれが高い関心を持って見学しました。



写真2 関門海峡

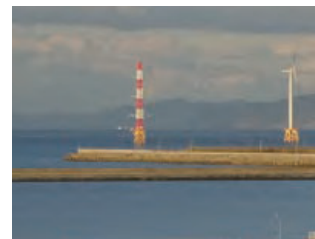


写真3 響灘洋上風力発電設備

4. おわりに

ご講演頂いた皆様、並びに視察においてご協力を頂いた電源開発(株)若松総合事業所の峯所長代理、露木総括マネージャー等の職員の方々に厚く御礼申し上げます。お陰様で大変有意義であったとともに、沿岸域の研究開発に携わる日韓の技術者交流が友好的かつ着実に進められていることを改めて実感したワークショップとなりました。また、KIOSTの金院長、安名誉研究委員にも大変お世話になりました。ここに記し、謝意を表します。